

明
あけやす

夏の夜の明けが早いこと。科学現象としては短夜と同じですが、短夜は夜が短いことをいうのに対して、明易は「明け急ぐ夜を嘆く」という思いが増す言葉。



直接雨を貰うことのない育苗ハウスの苗たちにとっては、梅雨の時期は高温多湿と育ちににくい環境下。梅雨明け、より暑くなるタイミングでも負けない苗作りと管理を行っています。

今月の ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

夏のメイン産地で収穫した夏葱のお届け

夏のメイン産地である丹後・美山・亀岡で収穫スタート。春先より約3か月かけて大切に育てた九条ねぎが、いよいよ7月から収穫期を迎えます。今年は気候条件にも恵まれ生育は順調でしたが、一方で虫害の発生が例年より早く、また病害への警戒も欠かせない状況でした。それぞれの産地の気候や土壌の違いに合わせて、丁寧な管理を重ねた結果、今年もスラリと伸びた美しいねぎに仕上がりました。シャキッとした歯ごたえに、ほんのり辛味を感じる爽やかな風味です。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

頼もしい仲間とともに乗り越える夏

6月上旬に梅雨入りを観測し、蒸し暑さを帯びた京都。梅雨の合間をぬって、秋冬に向けた作付けや、収穫を控えたねぎの品質維持など、農場では忙しい時期を迎えています。そんな中、今年も新たにベトナムとカンボジアから技能実習生が仲間入りしました。男性は力強く、女性は手際よく、それぞれの持ち味を活かして、ねぎづくりに取り組んでいます。また、今年は6月から気温が急上昇する異様な暑さで、例年より早く炎天下での作業が続いています。熱中症予防など、農人たちの健康管理にも気を配りながら、チーム一丸となって作業に励んでいます。広大な面積が、一面緑のねぎ畑の景色が楽しみです。

とある日の農人日記。

梅雨空が続く頃合いとなり、苗への菌資材の散布を行いました。根張りの促進することを目的としたものですが、この時期はどうしても劣化する率も高くなってしまうので、少しでも良い状態を維持できればと思います。（美山・大牧）



国は違えど、生産作業の目標達成に向けて頑張る仲間たち

6月度から既に暑く、熱中症対策は例年より早く実施。農人たちへのリスペクトを込めて毎年恒例のアイス支給も行います。



古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことわざだより

NO.218

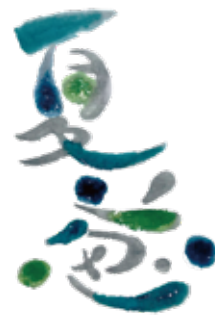
2025年7月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP

4A



こと京都は
「野菜を食べてよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。